

桜木長都線の運行実績と 今後の運行方針について

バス路線の見直し(桜木長都線)

【経過】

路線名	桜木長都線
事業主体	北海道中央バス(株)
背景・課題	- 令和3年11月に策定した千歳市地域公共交通計画の見直しにおいて実施したアンケート結果等では、当該区間を結ぶ路線の要望が多く寄せられたことから、長都駅を利用する通勤・通学やスーパーへの買い物などの地域住民にとって重要な目的地への移動手段を確保する必要があり、路線の新設を検討することとした。 - 路線の新設を検討するに当たり、利用ニーズを検証するため、令和3年10月に1か月間の実証運行を実施した。
実証運行の実施 (R3.10月)	[運行経路] 「桜木・自由ヶ丘地区」ー「長都駅・アークス長都店」間を運行 [運行期間] 令和3年10月1日～31日 [運行ダイヤ] 4往復(朝・夕2往復(通勤・通学目的に設定)、昼2往復(買い物目的に設定)) [結果] 昼の買い物目的の便は利用があった一方で、朝・夕の通勤・通学目的の利用は少なかった。 → アンケート結果を踏まえ、運行時間をよりニーズに合った内容に調整し、通年で試験運行を行うことにより利用需要を見極めることとした。

ルート



ダイヤ

●は平日のみの運行となります。

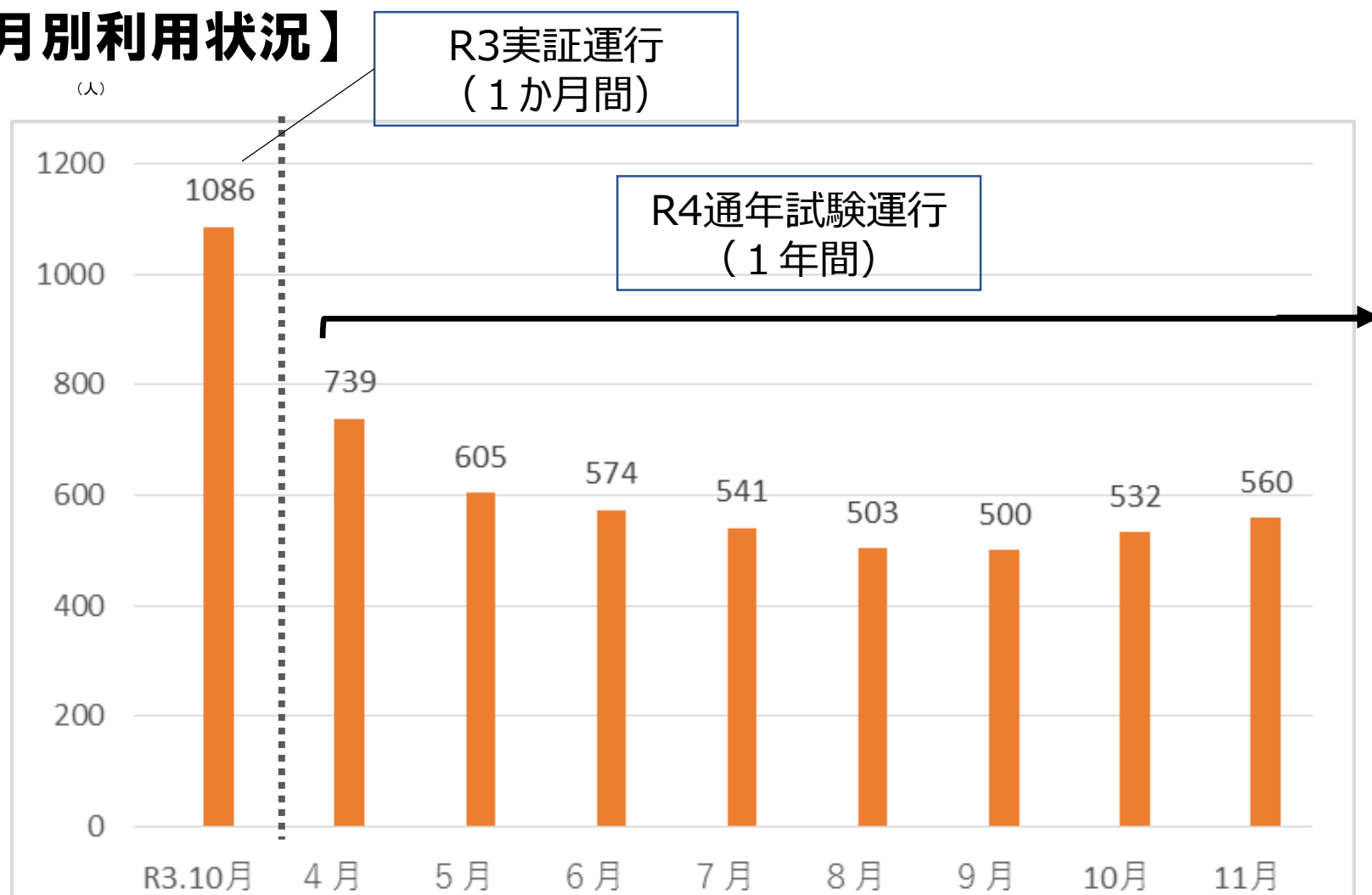
運賃

大人200円、小人100円

※乗車区間1.3km以内であれば「チョイ乗り100円」運賃が適用される。

通年試験運行の結果(R4.4月～11月)①

【月別利用状況】



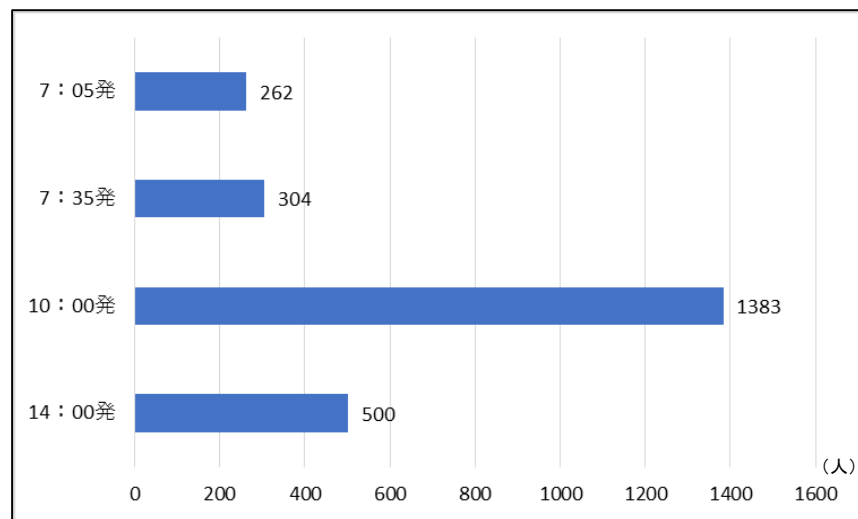
- 通年試験運行を開始した4月をピークに減少傾向。
- 10月以降は増加傾向へ転じた。
- 4月～11月の平均利用者数は570人/月。

通年試験運行の結果(R4.4月～11月) ②

【便毎の利用状況】

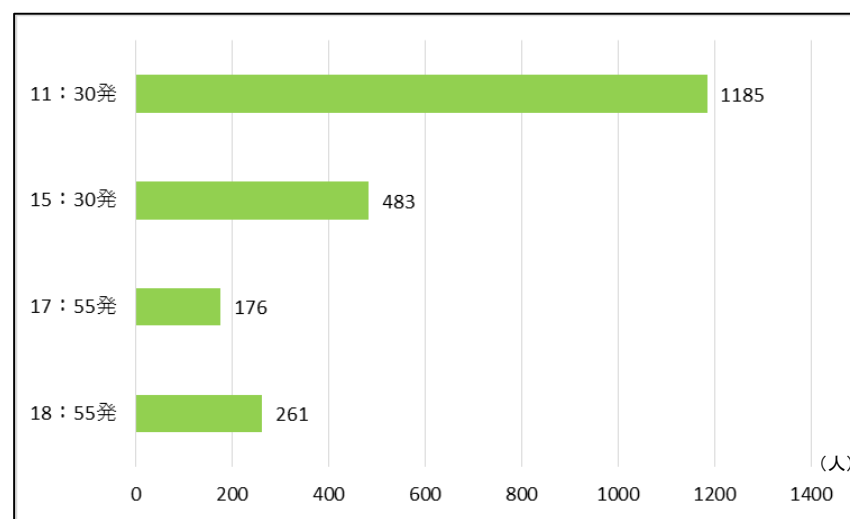
往路 桜木・自由ヶ丘 → 長都駅・アークス

(往路利用者2449人の内訳)



復路 長都駅・アークス → 桜木・自由ヶ丘

(復路利用者2105人の内訳)



- 通勤・通学用に朝・夕に2便ずつ設定したが、利用は少なかった。
- 買い物目的で設定した2往復（午前1往復、午後1往復）の便は比較的利用が多く、特に午前の便は利用が多かった。

通年試験運行の結果(R4.4月～11月) ③

【1便当たりの利用者数】

	往路(自由ヶ丘1→長都)				復路(長都→自由ヶ丘1)				往路合計	復路合計	往復合計
	第1便	第2便	第3便○	第4便○	第1便○	第2便○	第3便	第4便			
	7:05	7:35	10:00	14:00	11:30	15:30	17:55	18:55			
4月	1.3	2.4	8.0	2.7	7.1	2.7	1.1	1.4	14.4	12.3	26.7
5月	1.2	2.1	5.9	2.5	5.2	2.5	1.0	1.3	11.7	10.0	21.7
6月	1.0	2.5	5.5	2.1	4.6	1.6	1.8	2.1	11.0	10.1	21.1
7月	1.6	1.4	5.4	1.7	4.8	1.9	1.1	1.6	10.0	9.4	19.4
8月	1.8	1.2	5.2	1.6	4.4	1.5	0.9	1.4	9.8	8.1	17.9
9月	1.8	1.5	5.0	1.7	4.1	2.1	0.5	2.0	9.9	8.7	18.6
10月	2.2	2.1	5.0	2.1	3.9	1.6	1.0	1.6	11.5	8.1	19.5
11月	2.2	1.8	5.5	2.0	4.8	1.9	1.4	1.5	11.5	9.6	21.1
平均	1.6	1.9	5.7	2.0	4.9	2.0	1.1	1.6	11.2	9.5	20.8

- 朝・夕に通勤・通学の目的で設定した便は、令和3年10月の実証運行のアンケート結果に基づき、ダイヤ調整を行ったものの、固定客はなく、利用が進まなかった。
- 午前の買い物の目的として設定した「往路の第3便」、「復路の第1便」は、一定の需要が確認できたことから、安定的な運行が見込まれるが、午後の買い物の目的として設定した「往路の第4便」、「復路の第2便」は、利用が少なく、検討する必要がある。
- 運行期間として、冬季は夏季に比べて20～25%程度利用者が増加する傾向があるものの、急激に利用が増えることは考えづらく、次年度の運行を見据え、現時点である程度の方向性を示す必要がある。

バス事業者との協議が必要

通年試験運行の実績を踏まえた協議

【バス事業者との協議で出た意見】

- ・ 買い物のために設定した午前の便は利用が多く、一定程度の需要が見込まれる。
- ・ 買い物のために設定した午後の便は午前の便と比較して利用が進んでおらず、運行ダイヤが利用者のニーズに合っていないのかもしれない。
- ・ 朝・夕の便について、運転手からは「利用者が少ない状況で、いつまで運行を続けるのか」という意見があった。
- ・ 朝の便を利用している市民から、「朝の便は利用が少ないので、来年度は運行しないのでしよう」と諦めの声が聞かれ、運転手が返答に苦慮したことがあった。
- ・ 朝・夕の便は、需要として見込まれる固定客が確認できず、心苦しいが、路線バスの輸送に適した利用人数ではないことに加え、特に朝の時間帯においては、他の路線でも需要に対して便数が不足しており、運行を継続することは難しい。
- ・ J R 利用者は、桜木長都線がなくても、桜木線を利用することで千歳駅までアクセスすることが可能である。



【今後の方針(案)】

- 買い物目的として設定した午前の便は一定の需要が確認できたことから、継続することとし、買い物目的として設定した午後の便については、採算性を考慮しつつ、ダイヤを調整した上で、引き続き、通年の試験運行を継続し、利用状況を注視していく。
- 朝・夕の便については、試験運行の結果、利用者が少なく、今後の需要が見込めないことから、令和5年度以降は取りやめることを検討する。